

新しい教科書分析班

私たちは2班に分かれて活動を行った。

○A班

人数：7名（3年：2名、2年：2名、1年：3名）

実施期間：2022年10月～2023年1月

平成15年から平成29年にかけての中学校・高等学校の教科書掲載作品を整理し、学習指導要領の改訂に伴って内容や掲載作品がどのように変化していったかを調査した。具体的な対象として、1年生は漢文、2年生は古文、3年生が現代文（評論文・小説・詩）の研究を行った。

学習指導要領の記載の変化に応じて掲載作品が変化する場合もあれば、いわゆる「定番作品」として長年掲載されつづけている場合も多く有り、授業内で取り上げる教材の「目的」や「価値」について再度考えることのできる機会となった。

今後教育実習や実際に教壇に立った際に、この教材がどのような背景で選定され、どのような力を身に着けさせることができるか、どのように学ぶことができるかを考えなければならぬと痛感させられた貴重な研究会になった。



(大川内彩花)

○B班

人数：7名（3年：2名、2年：2名、1年：3名）

私たちは、中学校と高校それぞれの新学習指導要領の改訂が新しい教科書にどのように反映されているかを分析した。活動は以下の流れで行った。

- ・H29・H30の中学校と高校の学習指導要領と1つ前のものを比較し、改訂ポイントを話し合う。
- ・メンバーそれぞれで教科書1冊を担当し、洗い出したポイントの観点から新しい教科書を分析する。
- ・分析結果を持ち寄り、結果を発表し、新学習指導要領と教科書の関係について考察する。

以上の活動から、学習指導要領と教科書の相関関係について学ぶことができた。学習指導要領の改定を教科書に反映しようとする姿勢が見られる部分があれば、従来のもので変わらず、反映があまりなされていないのではないかと感じる部分もあった。授業では教科書を教材として用いることがほとんどであるため、教科書の目標がどのように教科書に反映されているかを考えることはとても重要なことであり、貴重な機会であったと感じる。また、新教科書では、自分たちが受けた授業では扱われなかった作品や言語活動も見受けられ、現在の国語教育のあり方について見つめ直す良い機会になった。



(山縣香月)